

奈良県政・経済記者クラブ、奈良県文化教育記者クラブ、橿原市政
記者クラブ、大阪科学・大学記者クラブへの同時配布



報 道 資 料

発表日：平成30年 5月 1日

所 属：公立大学法人 奈良県立医科大学

担 当：研究推進課 岡本

電 話：0744-22-3051 内線2552

「高齢者における白内障手術の認知機能への影響：
藤原京アイスタディ」が PLOS ONE 電子版に掲載

奈良県立医科大学眼科学教室（主任教授：緒方奈保子）は、奈良県在住の地域高齢住民を対象とした藤原京アイスタディを行い、白内障手術を受けた人では認知機能障害を生じにくいことが2018年2月20日付けで PLOS ONE 電子版に掲載されましたので、お知らせいたします。

Effect of cataract surgery on cognitive function in elderly: Results of Fujiwara-kyo Eye Study

Miyata K, Yoshikawa T, Morikawa M, Mine M, Okamoto N, Kurumatani N, Ogata N.

【藤原京アイスタディについて】

2007年から奈良県立医科大学疫学・予防医学講座（旧：地域健康医学講座）が奈良県在住の65歳以上の独歩可能な地域住民を対象として行っている「高齢者の生活の質（quality of life: QOL）と生活機能に関する大規模コホート研究」（通称：藤原京スタディ）で、2012年から追加健診として眼科が参加し、眼科分野と全身因子との関連について藤原京アイスタディとして研究成果を公表しています。過去には2873名の対象者のうち80歳以上の対象者の約40%で白内障手術が施行され視力が改善していることや（*Miyata K, et al. Biores Open Access. 2017*）、視力障害があると認知症のリスクが約2倍高くなること（*Mine M, et al. Biores Open Access. 2016*）を報告しています。

【白内障手術と認知症】

日本では65歳以上の15%が認知機能障害を生じているとされています。超高齢化が進む日本では、認知機能・視機能障害は医療コスト増大やQOL低下を引き起こし社会的問題となっています。以前に我々は視力障害が認知機能へ影響を与えることを報告（*Mine M, et al. Biores Open Access. 2016*）していますが、白内障手術が認知機能へ与える影響は不明

でした。本研究において、白内障手術をうけている患者さんの方が軽度認知機能障害になりにくいことを明らかとしました。つまり白内障手術は視力を改善させるだけでなく、QOLにとって重要な認知機能低下を生じにくくする可能性を示唆していると言えます。白内障手術は患者さん本人のQOLに関係するだけでなく、増大し続ける医療費を防ぐ一つの手段としても有用であるかもしれません。

【研究結果の詳細】

藤原京スタディ参加者 2764 名（平均年齢 76.3 歳）を対象として、白内障手術既往群 668 名と非手術群 2096 名の 2 群間の認知機能（Mini-Mental State Examination）を評価しました。視力を含む交絡因子を調整した多変量ロジスティック回帰分析で白内障手術群は非手術群と比較して軽度認知機能障害(mild cognitive impairment)が有意に少なかった（OR = 0.79, 95% CI 0.64, 0.97）が、認知症とは有意な関連を認められませんでした。視力と独立して白内障手術が軽度認知機能障害と関連することが明らかとなりました。

<問い合わせ先>

奈良県立医科大学 眼科学教室

教授 緒方 奈保子（おがた なほこ）

代表電話：0744-22-3051（内線 3433）

直通電話：0744-29-8884

FAX：0744-23-8032

E-Mail：ogata@naramed-u.ac.jp